

## リサーチセンター進捗状況報告書

センター名	メディア科学リサーチセンター
センター長名	中川聖一
設置の時期	平成 18 年 12 月 1 日
報告書作成日	平成 20 年 12 月 15 日

### 1. 設置の目的

20 世紀最後の技術革新であったインターネットの普及とともに、マルチメディア情報が爆発的に氾濫し、人間の処理能力をはるかに越えていることが問題視されている。現在、言語メディアと視聴覚メディアおよびこれらが融合された映像メディアの特性の解明とそれらを利用したメディアの創生・処理技術が囑望されている。本センターでは、21 世紀の心の豊かさを求める時代に相応しいメディア処理技術とそれを支えるメディア科学を研究し、世に貢献することを目的とする。

マルチメディアの特性を解明し、その進化・高度化を担うメディア処理技術・コンテンツ技術の研究・開発を推進する。また、これにより、以下も実現する。

- ・ 系横断的連携の推進
- ・ 情報系の研究拠点形成
- ・ 学外研究組織・研究者・高専との連携の促進

### 2. 設置後の研究成果

#### 1. メディア科学研究・開発の推進

メディア科学に関する要素技術の研究を各メンバーが推進し、その成果を年報にまとめ、WWW 上で情報発信した。(平成 18 年度 [http://msrc.tut.ac.jp/H18\\_report/index.html](http://msrc.tut.ac.jp/H18_report/index.html), 平成 19 年度 <http://msrc.tut.ac.jp/msrc2007/index.html>) また、平成 19 年 9 月 25 日および平成 20 年 10 月 7 日に、メディア科学リサーチセンター年次研究発表会を開催し、センター研究者間で情報交換を行った。

#### 2. 系横断的連携の推進

リサーチセンターメンバーにより、系に跨って研究グループを組織し、外部資金獲得の申請を行った。研究グループと、申請および申請中の外部研究資金制度を以下に示す。

中川(代表者)、三浦、三宅、廣津、秋葉:

- ・平成 19 年度セコム科学技術振興財団研究助成「セキュリティ・プライバシーを考慮した未来情報アクセス空間「どこでもシームレスパソコン」の構築」
- ・平成 20 年度科学技術研究補助金,基盤研究(A)「音声・画像入出力インターフェースに基づく近未来アンビエント情報アクセス空間の構築」

・平成 20 年度セコム科学技術振興財団研究助成「セキュリティ・プライバシーを考慮した安心安全なメディア情報共有・個人空間の構築」

中川(代表者)、三浦、廣津、秋葉:

・平成 21 年度科学技術研究補助金,基盤研究(A)「セキュリティとプライバシーを考慮した非接触型マルチモーダルインターフェースの研究」

増山(代表者)、新田、中川、堀川、青野、栗山、秋葉:

・平成 20 年度総務省略的情報通信研究開発推進制度・ICT イノベーション創出型研究開発「マルチメディアデータのセマンティックアーカイブ化と高度利用の研究開発」

・平成 21 年度総務省略的情報通信研究開発推進制度・ICT イノベーション創出型研究開発「セマンティックアーカイブ化されたマルチメディアデータに対する高度利用法の研究開発」

新田(代表者)、中川、三浦

平成 20 年度科学技術振興機構・戦略的国際科学技術協力推進事業日印研究交流「A Framework of Multimodal Interaction System and its Applications」

### 3. 情報系の研究拠点形成・外部への情報発信

視聴覚コア、メディア信号処理コア、セマンティックアーカイブコアにおいて、以下のワークショップをのべ6回開催し、各々関連研究分野の研究拠点の形成を行った。

- ・平成 19 年 2 月 26 日-27 日,「第 1 回音声ドキュメント処理ワークショップ」
- ・平成 19 年 10 月 24 日-25 日,「第 2 回ウェブレット変換およびその応用に関するワークショップ」
- ・平成 19 年 11 月 27 日,「第 2 回聴覚皮質研究会」
- ・平成 20 年 2 月 29 日-3 月 1 日,「第 2 回音声ドキュメント処理ワークショップ」
- ・平成 20 年 9 月 17 日-18 日,「第 2 回ウェブレット変換およびその応用に関するワークショップ」
- ・平成 20 年 11 月 28 日-29 日,「第 2 回聴覚皮質研究会」

### 4. 学外研究組織・研究者・高専との連携の促進

視聴覚コア、メディア信号処理コア、セマンティックアーカイブコア、e-learning コア、各々において4つの客員教員プロジェクトを実施、計8名の客員教員を迎えて、研究の連携を促進した。その成果は、上記の年報で報告している。客員プロジェクトおよび客員教員は以下の通り。

「視聴覚コア」：力丸裕(同志社大)、古川茂人(NTT)  
「メディア信号処理コア」：戸田浩(フリーライター)、堀畑聡(日大)  
「セマンティックアーカイブコア」：山本和英(長岡技科大)、北岡教英(名大)、伊藤克亘(法政大)  
「e-learning コア」：壇辻正剛(京大)

### 3 . 今後の研究計画及び期待される効果

平成 21 年 2 月に「第 3 回音声ドキュメント処理ワークショップ」、平成 21 年 9 月に「第 3 回ウェブレット変換およびその応用に関するワークショップ」、平成 21 年 11 月に「第 3 回聴覚皮質研究会」を開催し、当該分野における研究拠点としての活動を継続する。また、メディア科学研究・開発を推進し、平成 21 年 6 月に成果を年報にまとめ情報発信を行う。また、平成 21 年 9 月に年次研究発表会を開催する。

その他、系に跨って組織した研究グループを継続し、外部研究資金獲得のための申請を継続する。また、4 つの客員教員プロジェクトおよび高専連携を継続し、外部研究組織との連携を深める。

この進捗状況報告書は、評価の後公表します。